

## 入 選

水

水戸市立笠原中学校

三年 山 野 珠々菜

コップを片手に持ち、水道の蛇口をひねる。コップには透明な水が注がれる。その水は、とても冷えていて、おいしい水だ。私はその水をそのまま口に運ぶ。それが私のあたり前の日常だ。生まれた時から、水をそうやって使用してきた。

水は人の命を維持するために、必要不可欠だ。私たちは、水をトイレや風呂、炊事、洗濯など、日常の様々な場面で必要としている。だが、その水はひとりで水道を流れている訳ではない。私たちの元に届くまでに、川から水を吸い上げ、ダムに溜め、浄水場で安全な水に変えている。手間と時間をかけて、安全な水を届けてくれる人がいるのだ。その分、水は大切にすべきだと思う。

また、水は限りある資源である。地球上の七割が水だと言われているが、その九十七パーセントが海水として存在し、淡水は残りの三パーセントにすぎない。さらに、そのほとんどが氷河や氷山として存在している。そのため、人類が直接に利用可能な水は、総量の一パーセント未満である。このこともふまえて、やはり水は、大切にすべき資源だと思う。

水を大切にすると、具体的に言うと、次のようなことだと考える。無駄使いを防ぐために「コップに入れて使う」「蛇口はすぐに閉じる」「ため洗いをする」など。汚染を防ぐために「ゴミを川にすてない」「食器などの油汚れは紙でふきとる」「細かいゴミを流さない」などがある。水は循環していて、私たちが汚した分、きれいで安全な水に戻してくれる人がいる。水には、多くの生き物が住んでいて、私たちが汚染を続ければ、その生き物たちはそこで生きられなくなってしまう。だから、どんなに細かいことでも、意識して行えば、必ず誰かのためになっているのだ。

私は、どこの国も、水道の蛇口をひねれば安全な

水が出るということがあたり前の世界にしたい。そのため私は思う。

あなたが汚した水をきれいにする人がいる。汚れてしまった水の中に生きるものもいる。水は、世界中とつながっている。どこの国の人も、同じ水を使っている。だから、水の問題で「関係ない」なんて人はいない。ほんの小さなことから始めよう。いつもより一秒速く蛇口を閉め、コップを使う、バケツやジョウロを使う。風呂の残り湯を使う。洗剤を使わずに洗う。だれもが日常で心がけ、実践できることだ。だが、あたり前のことほど、続けるのは難しい。一人が一日で必要とする水は、トイレや風呂を合わせて、二百八十リットルと言われている。だから、日常で使用する水を減らし、なるべく汚さないことに努められるのが一番手っ取り早いのだ。

始まりはたった一人でもいい。まずは、自分が心がけ、その考えや活動がだれかの心に響けば、それに感化され、動いてくれるかもしれない。続けていけば、自分だけでは声の届かなかったところまで、声を飛ばせるかもしれない。始めてみなければ分か

らない。やってみる価値はある。

私はいつか、水道水は何よりもおいしい飲み物だと言える日が来ることを心より願っている。